



気になる Shop

43

映画を肴に語らおう！ 自主映像制作者が集う店

木乃久兵衛 【キノ・キュッヘ】

文・写真=齊藤円華



夕暮に浮かび上がる「木乃久兵衛【キノ・キュッヘ】」の看板

映像編集のデジタル化が進んだ現在は、ビデオカメラがあれば誰でも映画が撮れる時代だ。しかも映画館に行けば様々なテーマでドキュメンタリー映画が公開されている。フィクションを求めるばかりでなく、自分が知らないことを知るために映画を観る人が着実に増えている証拠だろう。

JR国立駅から歩いて15分の場所にある「木乃久兵衛【キノ・キュッヘ】」は、ドキュメンタリーをはじめとする自主映像の制作者たちが集う居酒屋。店内には8ミリ・16ミリフィルムの映写装置、デジタル作品用のプロジェクターが完備されている。

風変わりな店名だが、ドイツ語でキノ＝映画、キュッヘ＝キッチン。店主の佐々木健正さんも映画制作者だ。

過去には、企業爆破事件を起こした「東アジア反日武装戦線」メンバーの母親にインタビュを続けた「母たち」(1987年)を撮ったこともある。「上映会ができて、終わったらそのまま飲み会ができる店を」。



店内には上映装置が完備。自主上映会に最適

精神病院で調理師として働きながらカメラを回していた佐々木さんが、友人らの資金協力を得て20年前に店を開いた。山形国際ドキュメンタリー映画祭の出品作を上映したり、美大生の自主上映会が開かれたり。ラテンアメリカ研究者の太田昌国さんを招いてのイベントも毎年のように企画されている。開店当時はバブルの余韻が残り、近所の郵政研修所の受講者らで賑わった時期もあった。だが不況は長引き、この「自主映像制作者の梁山泊」も決して常に安泰、というわけではない。

「病院に勤めながら撮っていた頃の方が楽ではあったね」と笑う佐々木さん。それでもキッチンに立つ姿は楽しそうだ。夕暮の中、店に明かりが灯る。今日も「国立劇場」の幕が上がる。



店主の佐々木健正さん



沖縄やキューバのお酒も

data 木乃久兵衛 【キノ・キュッヘ】

186-0012 東京都国立市西2-11-32 B 1
TEL 042-577-5971
営業時間/ 18:00 ~ 24:00 定休日/ 日曜日、月曜日
アクセス/ JR国立駅南口から徒歩15分
<http://www1.pbc.ne.jp/users/kino9/>

